交通バリアフリー通信　vol.3

『広島の旅、私たちがサポートします！』

バリアフリーやユニバーサルデザイン等の分野において先進的に活躍されている方のもとを訪問し、当事者目線の情報発信を目指している『交通バリアフリー通信』。

第３回となる今回ご協力いただいたのは、障害のある方の観光をお手伝いする『ボランティア鯉城の会』の皆さんです。障害のある方にも旅を楽しんでいただきたいと、会社を定年退職したシニア世代の方々が中心となり有志で始めた“バリアフリー × 観光”の活動は、広島県内でも珍しい取組です。代表の小松清志さんにお話を伺いました。

【今回ご紹介するのはこの方！】

ボランティア鯉城の会

結成：平成 25 年 4 月
会員数：29 名（平成 30 年 3 月現在）
活動内容：市外から訪れる障害者への観光案内等の介助ボランティア
主な活動場所：広島市内

◆「鯉城の会」結成の経緯、活動内容についてお聞かせください。

障害のある方が広島に来られた際、安全・安心な時間を楽しく過ごしていただくための支援を行うことを目的として、平成 25 年に設立しました。当初は広島市社会福祉協議会主催のボランティア介助講座を受講した 13 名でスタートし、現在は会員 29 名（平均年齢 70 歳）で活動しています。活動内容は、主に視覚障害・身体障害（車いす）の方に付き添い、広島市内を中心とした観光案内や会議・スポーツ大会等の支援を行うことです。申込みは広島市社会福祉協議会ボランティア情報センター経由で受け付けており、ガイド依頼があった場合には、「鯉城の会」のメンバーが２人１組で安全・安心を確保した上でサポートをします。

鯉城の会　代表　小松氏

◆これまでどのような方を介助されましたか。

全国各地、時には海外からも依頼があります。一番初めにご案内した方は視覚障害をお持ちの方で、京都から「昔の京都市電の音が聞きたい」と広島へ来訪されました。会員のサポートのもと、現在は広島電鉄の電車として走っている元京都市電の車両に乗車され、座席・手すり・つり革等の感触を楽しまれました。また、広電車庫では旧京都市交通局のマークや製造年月の刻印に触れられました。

団体への対応としては、倉敷市の福祉団体が、新幹線を貸し切り障害者・介助者を含め総勢367 名で来広された際のお手伝いを行いました。この団体は、「平和なくして福祉なし」をテーマに、障害者の方と医療･福祉の専門家やボランティアが共に貸切列車で１日旅行を楽しむ活動を企画・サポートする活動を行っており、10 年の節目ごとに広島を訪れ、平和記念公園でセレモニーを行い、市内観光を楽しまれています。また、５月のフラワーフェスティバルと、８月６日の平和祈念式典の際には毎年ボランティアとして参加しています。鯉城の会のメンバーには高齢者が多いので、定期的に勉強会や介助研修を開催し、安全に介助が出来るように心がけています。

◆研修や勉強会はどのようなものですか。

月１回定例会を開き、会員同士の情報交換に加えて障害者についての講義やガイドコースの下見等を行っています。また、一般向けに年１回「市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座」を実施しています。元々は広島市社会福祉協議会が主催していたものですが、市社協の要請を受け、また会の活動の中で後継者育成の必要性を感じるようになってきたことから、自分たちが主催して講座を開催することとしました。この講座では、実際に視覚障害者の方、身体障害者の方を介助しながら広島駅周辺、平和記念公園等へ公共交通機関を利用して外出します。参加費は無料で、介助経験のない人も歓迎しています。有難いことに、ほぼ無償のボランティアにも関わらず多くの障害当事者の方が講座の趣旨に賛同され、ご協力くださっています。

◆観光プランはどのように考えられていますか。

申込者から「この場所へ、この交通機関を利用して行きたい」と詳細なプランを示されることもあれば、「２泊３日で広島へ行きますが、どのようなコースがいいでしょうか」と相談を受け一緒に考えることもあります。食事ではお好み焼き・牡蠣をリクエストされる方がほとんどです。障害があってもアクティブに行動される方が多いように感じます。

◆障害者の方と一緒に観光されるなかで、改善が必要だと思われる点はありますか。

最近は車いすや視覚障害の方と歩いていると多くの方が道を譲って下さったり、手を貸して下さったりするので、障害に対する理解が進んできたと感じることが多いです。しかし、飲食店や小売店では、車いすの方と入店すると断られることもまだまだあるのが現状です。以前、車いすの方とスーパーへ入店すると、「店内は狭く通行が難しい、他のお客さんも通れなくて困る」と断られたことがありました。また、視覚障害の方と一緒の時によくあるのが、買い物をして金額を支払った後、おつりを介助者に渡されるケースです。視覚障害者の方は手で触れることでお金が正しく収受できたか確認できますので、ご本人に渡すよう気をつけて頂きたいと思います。

視覚障害がある方には、直接触れたり肌で感じたりできる観光のしかたが非常に喜ばれます。例えば、宮島の大鳥居は、干潮時であれば直接触ることができるので、皆さん触れて感激していただいています。

障害者の介助は難しいものではなく、それぞれの特性さえ知っていただければ、少しの配慮で対応可能であるということを広く理解してほしいです。

◆今後の目標を教えてください。

会の知名度がまだ不十分だと思いますので、私たちの活動をいかに周知し、旅をしたくても躊躇している障害者の方々に知っていただくかが課題です。同時に、高齢者の多いグループですので、前述の一般向け介助講習会などを通して後継者を育てるとともに、１人でも多くの方にご協力いただきたいと思います。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの際には、広島にも多くの外国人観光客が訪れることが予想されますので、外国語が使えるボランティアも増やしていきたいと考えています。

〇お問い合わせ先　**※介助のお申し込みはこちらから**
広島市社会福祉協議会ボランティア情報センター
TEL：082－264－6408　　E-mail：voinfo@shakyohiroshima-city.or.jp

＊編集後記＊

代表の小松さんは、会社員時代は自動車部品メーカーの営業職としてご活躍されていたこともあり、笑顔と明るくはきはきとした話し方が印象的でした。介助ボランティア講習当日は、あいにくの雨にもかかわらず 30 名以上の参加があり、参加者のみならず講師役の障害者の方々にも楽しい講習会だと好評だったそうです。